

東光小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的な知識や技能を習得し、課題解決に生かす力の向上
- ②書く・話す活動を通じた思考力・判断力・表現力の向上
- ③主体的に学びに向かい、互いを高め合う力の向上

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員  
2年担任：幸路真理

委員  
校長：岡田恭一  
教頭：前田和博  
教務主任：瀬川知絵

校長  
岡田恭一



◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや四則計算については、ある程度の定着が見られる。 ●基礎・基本の定着に個人差があり、配慮の必要な児童がいる。 ●課題解決のために必要な情報を読み取って活用する力が弱い。	・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けることができる。 ・教科書の内容や問題文の意図、表やグラフが示す意味などの読み取りができる。	・定期的の小テストを行ったり、計算練習などを継続的行ったりすることで、基礎・基本の定着を図る。 ・分かる授業を目指して教材・教具の提示の仕方を工夫し、個々の児童に応じた補充的な学習指導を行う。 ・重要な部分にアンダーラインを引いたり、指示語などのキーワードを囲んだりして注目させ、何が書かれているかを的確に捉えることができるようにする。	生活経験の少ない児童が理解しやすいように、写真や動画・具体物等を見せる工夫を継続して行っていく。 個々の児童に応じた補充的な学習を充実させるために、タブレットを使ったドリル学習に取り組ませる。		

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分が体験したことについては、進んで書いたり話したりすることができ、伝える力を身に付けてきている。 ●筋道立てて自分の考えを書いたり説明したりする力が不足している。	・根拠や理由を明らかにしながら、自分の思いや考えを表現することができる。 ・他者の意見を取り入れながら、自分の思いや考えを深めることができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を設定し、自分の考えを伝え合う場面を増やす。 ・「なぜ」「どうして」そう考えたのかを児童が説明できるように、発表の仕方や書き出しのモデルを提示する。 ・ホワイトボードやICTを活用することで、自分の考えを整理したり、友達の考えとの共通点や相違点に気付いて自分の考えを深めたりできるようにする。	発表の仕方や書き出しのモデルを提示することで、どう発表してよいか分からない児童が発表しやすくなった。 ロイロノート等で友達の意見を映し出すと、自分の考えと比べやすくなった。引き続き取り組んでいくようにする。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にまじめに取り組み、方法や手順が分かる学習には意欲的に取り組める。 ●自分から課題を見つけて学習しようとする意欲が乏しい。 ●家庭での読書習慣が身に付いておらず、読書時間が少ない。	・学習に対して見通しをもち、主体的に取り組むことができる。 ・自ら課題を見つけて学習を進めたり、話し合い活動等を通して解決する方法を考えたりすることで、学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。 ・本を読む楽しさを感じることで、進んで読書をする習慣を身に付けることができる。	・何を学ぶのかが児童に伝わるように、授業のめあてを提示し、学んだことを振り返る場面を設ける。 ・自ら課題を見つけて学習を進めたり、話し合い活動等を通して解決する方法を考えたりすることで、学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。 ・児童が自ら選択して学習に取り組めるように、タブレットを使って行うことができる自主学習教材を準備しておく。 ・学校図書を活用させ、本の紹介や読み聞かせをすることで、読書意欲を高める。	授業の振り返りを毎時間することは難しいが、単元ごとに振り返る機会を設ける。 タブレットを家庭に持ち帰り、児童が自分に合った課題を選んで主体的に学習に取り組むことができるよう、今後検討していく。		

令和3年度 学力向上ロードマップ

